

平成 19 年（2007 年）の栗駒山の火山活動

仙 台 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○ 2007 年の活動概況

・地震や微動の発生状況（表 1、図 2～3）

火山性地震は少ない状況が続いています。火山性微動は観測されませんでした。

・噴気など表面現象の状況（図 4～5、表 2）

7 月 25 日に現地調査を実施しました。ゼツタ沢上流などの噴気の状況は低調な状態でした。

赤外熱映像装置¹⁾による地表面温度分布及びサーミスタ温度計²⁾による噴気温度等の観測結果は、前回（2006 年 10 月）と比べ特段の変化はなく低調な状態でした。

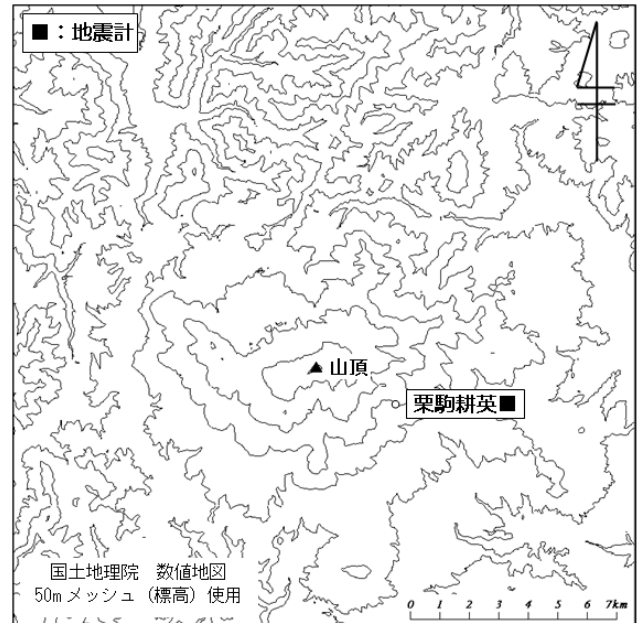


図 1 栗駒山観測点配置図

- 1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
2) サーミスタ温度計は、半導体の電気抵抗が温度変化する性質を利用して温度を測定する測器。

○ 2007 年の噴火予報及び噴火警報の発表状況

発表日時	噴火警報または噴火予報	活動状況及び予報警報事項
12 月 1 日 10 時 20 分	噴火予報（平常）	火山活動はこれまでと変わらず静穏な状況で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られない。

注) 平成 19 年 12 月 1 日より噴火警報及び噴火予報の発表を開始し、それに伴い従来の緊急火山情報、臨時火山情報及び火山観測情報は廃止しました。

この資料は、仙台管区気象台のホームページ (<http://www.sendai-jma.go.jp/>) や、気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

※資料は、気象庁のデータの他、東北大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」を使用しています。（承認番号 平 17 総使、第 503 号）

表 1 栗駒山 火山性地震・微動の月別回数

	2006年			2007年											
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
地震回数	5	2	0	2	2	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

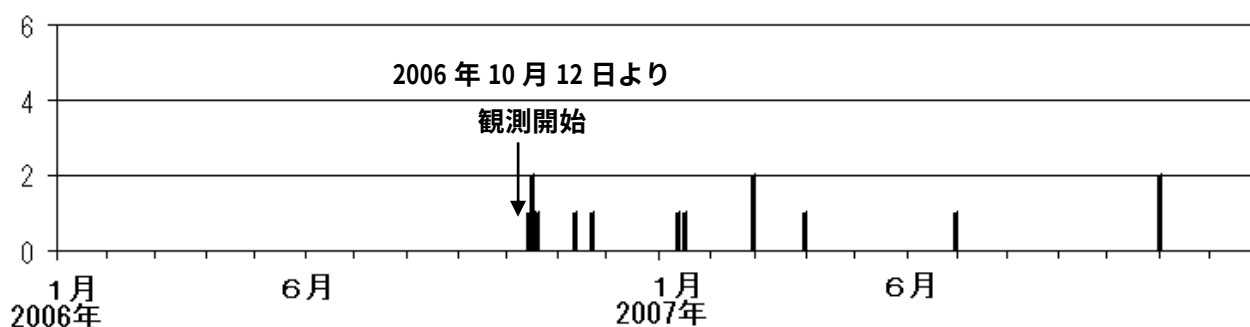


図 2 栗駒山 日別地震回数 (2006 年 10 月～2007 年 12 月)

2006 年 10 月 12 日から観測開始

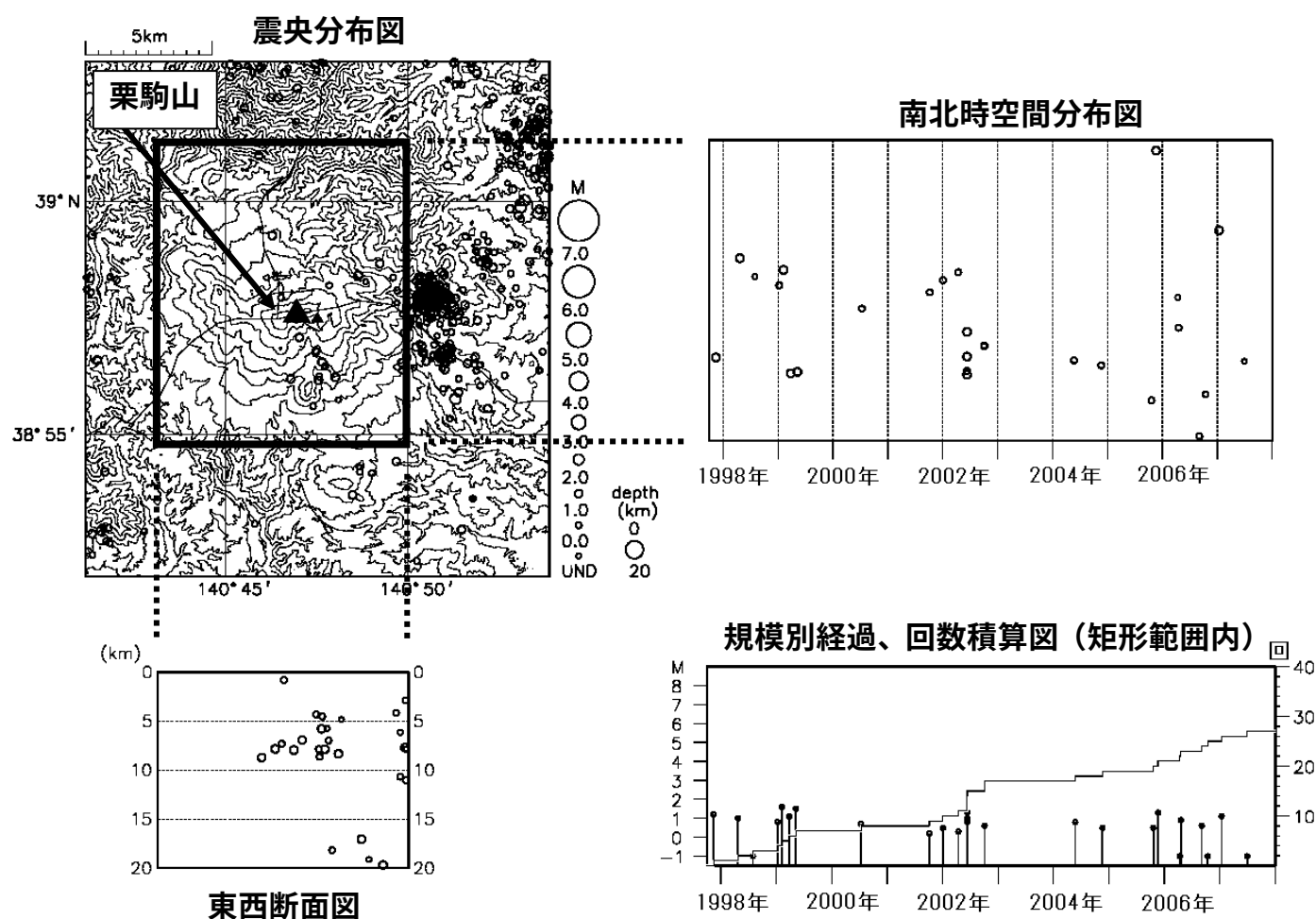


図 3※ 栗駒山周辺の地震活動 (1997 年 10 月～2007 年 12 月)

注) 2001 年 10 月以降、検知能力が向上しています。

M (マグニチュード) は地震の規模を示します。

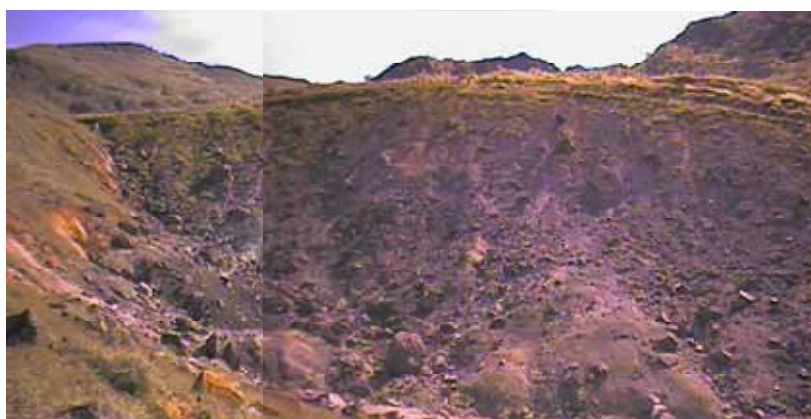
図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがあります。



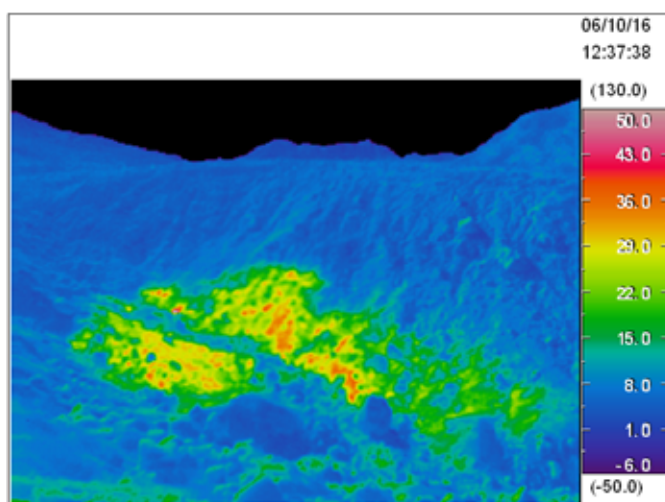
図 4 栗駒の地形図と赤外熱映像撮影ポイント

表 2 ゼッタ沢上流 噴気温度観測結果

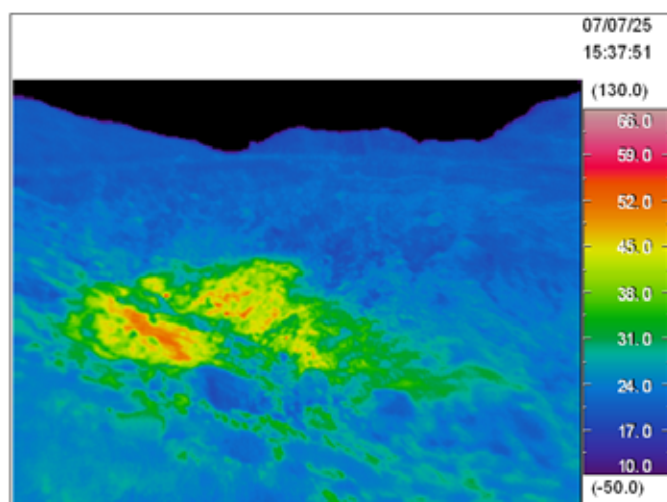
	2006・10	2007・7
天気・気温	晴・8℃	薄曇・23℃
噴気温度	95℃	94℃
深さ (cm)	10	10
噴気の高さ (m)	10	10



可視画像 (2007 年 7 月 25 日撮影)



(2006 年 10 月 16 日撮影 気温 8℃)



(2007 年 7 月 25 日撮影 気温 23℃)

図 5 ゼッタ沢上流の可視画像 (上) と赤外熱映像装置¹⁾ による表面温度分布 (下)